■「奥野ひかるライブ IN 大船渡」歌と笑いで被災地に元気を

2014 年 2 月 28 日、いわて生協の復興応援文化企画「奥野ひかるライブ IN 大船渡」がリアスホールで開催されました。

●芸術・文化にふれてリフレッシュを

いわて生協では、東日本大震災で大きな被害を受けた沿岸地域にお住まいの方に、芸術・文化にふれてリフレッシュしてもらうことを目的に、11 年度から復興応援文化企画を毎年開催しています。費用は、日本生協連支援募金といわて生協組合員の「東日本大震災支援募金」が活用されています。

11 年度は歌手の南こうせつさんのコンサート、12 年度は中国の伝統的な弦楽器「二胡（にこ）」奏者のジャー・パンファンさんのコンサートが行なわれ、どちらも好評を博しています。

そして、13 年度の今回は、12 年 2 月から仮設住宅での慰問ライブを自費で続けている奥野ひかるさんのライブでした。パワフルな歌声とコテコテの大阪弁のボケとツッコミが大人気の奥野さんにお話を伺いました。

慰問ライブを自費で続けている奥野ひかるさん。

●被災地に元気と笑顔を

「おばーちゃん、口開いてる！」

「おじーちゃん、起きてる？」

奥野さんのトークで、会場は笑いの渦に包まれていました。

「ソイヤー！　の時は、大きく口を開けて顎（あご）の骨をカーンと外して、白目をむいてね！」

ユーモラスに掛け声やハンドアクションを指示し、お客様をステージに上げてダンスも一緒に行なう奥野さん。

「初めての方は、何が起こったのか分からないと思います（笑）。でも、後からじわじわと思い出して、笑ってくださるようです」

笑いとともにプロの歌をしっかり楽しめる 1 時間 30 分のステージの後、奥野さんは疲れをまったく感じさせない笑顔でインタビューに応じてくださいました。

「ライブのきっかけは、駆け出しの頃にお仕事で東北へ行った時、現地の皆さんにとても良くしていただいたことです。震災直後は、地元で被災地への募金を集めるライブをしていたのですが、京都市内のイベントで岩手県のボランティア団体の方から、岩手で歌を歌ってくれないかとお声を掛けていただきました。『歌で人を元気にしたり、心を癒やしたりするのが歌手の仕事』という祖母の言葉を思い出して、行く決心をしました」

会場のお客様も参加し、楽しみました。

大阪府高槻市の農家に生まれたひかるさんは、歌が好きな祖母の影響で 3 歳から民謡を習い、中学生の時にNHKのど自慢で優勝し芸能界入りしました。その後は大学に通い、就職・退職後に個人事務所を設立、現在は歌手として活動中です。また、岩手県更木（さらき）の特産である桑の葉を使った「更木桑茶PR大使」や、「京野菜特命宣伝大使」を務め、そのテーマソングや日本農業応援歌も歌っています。

2014年2月28日「奥野ひかるライブ IN 大船渡」歌と笑いで被災地に元気を

「最初に仮設住宅にお邪魔したのは 12 年 2 月、大船渡市でした。デザイナーをしている妹が作ったステージ衣装を着てドアを叩いて、『大阪から来ました。応援の歌を歌わせてください』と飛び込みで言ってみたのです。出ていらした方は、驚いて『寒いでしょう？　お入りなさい』と中に入れてくださって、歌を聞いてくださいました。それからは、四畳半のお部屋や仮設住宅の集会室などで 200 回以上ライブをさせていただいています」

客席と一緒に盛り上がりました。

　現在も毎月、仮設住宅でのライブを続けています。

「最初の頃は『今は、歌を聞ける気分ではないから』とおっしゃる方もいらっしゃいました。そもそも他人様のおうちに上り込んで歌いたいというんですから、図々しいですよね（笑）。温かく受け入れてくださった皆さんに感謝しています」

●出会いから生まれたオリジナルソングも

　ポジティブで明るいひかるさんにも、迷った時がありました。

「実は、慰問が 100 回目を迎えた頃は落ち込んでいました。復興が進まず、『私の歌など何の役にも立たないのではないか』と思ってしまったのです。でも、たくさんの方から、『家族を失って、毎日死ぬことを考えていたけど、ひかるちゃんの歌を聞いて悩むのがバカバカしくなった』『亡くなった娘や息子を思い出した』と言っていただいて、『よっしゃ！　仮設がなくなるまで私も頑張ったるわ！』と思えたのです。迷いがふっきれましたね」

奥野ひかるさんとけせんコープ理事の佐々木憲江さん。

　また、「仮設住宅には、住もうと思っても住めるものではないから、住める自分は幸せ。楽しまなくちゃね」とおっしゃった方もいらしたそうです。

　そうした数々の出会いの中で、歌も生まれてきました。

「皆さんのお手伝いができればいいなと。ある時、漁師のおじいさんから『漁師はいつも波と闘っている。津波に負けてなんかいられない』と聞かされ、応援歌『がんばっ節（ぶし）～東北のおじいさんからのメッセージ』を作りました」

　わしらが日本！　がんばっぺし！※
　東北育ち　荒波くぐり　自然の恵みに　命をゆだね
　見えない敵は　己の心　親父譲りの　血が騒ぐ

※「がんばっぺし」とは、東北の言葉で、単に「頑張ろう」というよりも、「一緒に頑張ろう」の意味があるそうです。

　また、陸前高田市の仮設ライブで号泣した女性から、「娘を思い出した」と打ち明けられ、その女性のために『結（ゆい）』も作られました。

　終わりなき旅のはじまりは、　決して別れじゃないんだよ
　君と出会えた喜びは、　命つきても続いてる
　長生きするんだ　ありがとう

　民謡で培われた力強い歌声に、会場の皆さんが聞き入っていました。リアスホールでのライブでは進行を事前に企画されましたが、普段は年齢層や雰囲気を見ながら曲目や進行をその場で考えているそうです。

2014年2月28日「奥野ひかるライブ IN 大船渡」歌と笑いで被災地に元気を

●「次回まで生きていてね」

いつもライブ終了後には、仮設住宅の皆さんとお茶っこ（お茶会）をして、いろんなお話をされるそうです。

「『ひかるちゃん、また来てね』『うん、それまで生きていてね』とか、そんなごあいさつもしています。それから、『私はNHKの紅白歌合戦に出たいから応援してね』とか（笑）応援しに行っているのに、私の方こそ励まされています。この活動は、絶対にやめません。現在は沿岸部が中心ですが、内陸の仮設にも伺いたいですね。また、支援されている生協の皆さんにも元気を容赦なく注入してあげたいです。支援する側こそ最大の元気が必要ですから」と結んでいました。

いわて生協スタッフの皆さんと。

いわて生協のスタッフのお話

〇小野寺真さん

「復興応援文化企画」は、支援物資として仮設住宅にカレンダーをお配りした際に、「カレンダーをもらっても、何も予定がない」という声を聞いたことがきっかけでスタートしました。炊き出し（お振る舞い）、移動販売、ふれあいサロン、共同購入（宅配）の配達日、コンサートなど、生協が主催する応援活動や事業を通した応援で予定がいっぱいになればと考えています。子どもがずっと前から遠足の日を楽しみに過ごすように、生協の復興応援文化企画の日を指折り数えて待っている、そんな企画をこれからも続けたいです。皆さんが今日のライブを本当に楽しみにしていました。

〇飯塚郁子さん

会場にいたみんなが楽しめました。「何年かぶりにお腹の底から笑った」という方が多いですね。お客さまだけはなく、いわて生協のスタッフも楽しめました。

「予定」を作るのは大切なことですね。前から楽しみにできますし、奥野さんのライブは終わってからも思い出して笑えます。本当に感謝しています。